

## § 4 : 施設のあり方

## （仮称）公園案内/喫茶/版画工房/アート体験棟の考え方

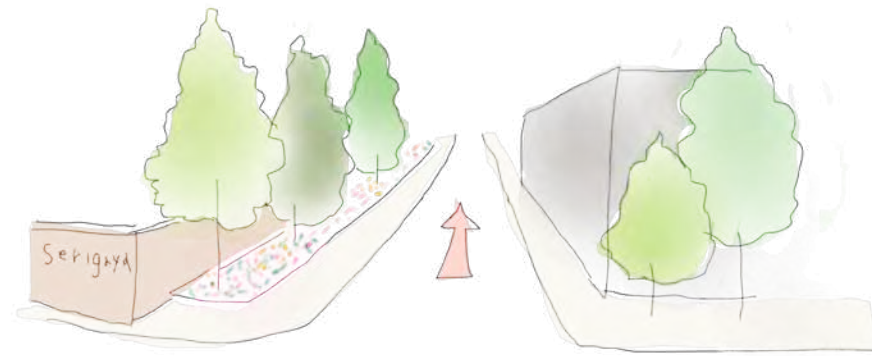
### パークミュージアムと一体の自然環境を感じられる創作体験拠点

（仮称）公園案内/喫茶/版画工房/アート体験棟はアートと触れ合える機会が生まれる場所となるよう、専門性の高いプログラムだけでなく、子どもも気軽に参加できるプログラムが充実したと場します。施設には多くの人々が行き交うようにパークミュージアム全体と連動し、公園と施設内が一体的な回遊性を作り出す計画を検討していきます。また、風や光が抜けていく、芹ヶ谷公園の豊かな自然環境を感じられるような建築となるよう検討を進めていきます。

### 配置計画

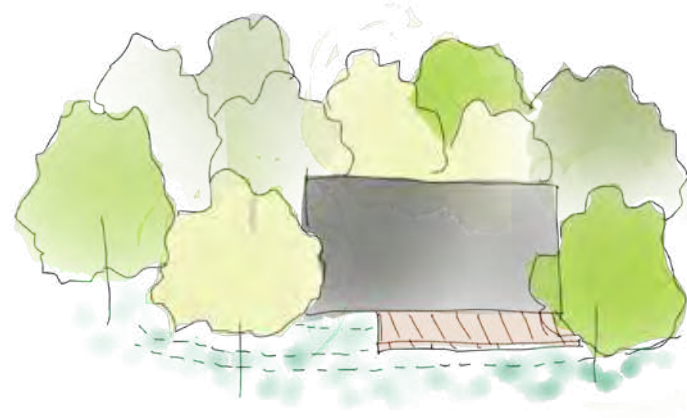
#### 公園の入り口となる開かれた場所

芹ヶ谷公園のエントランスの一つとして、来園者が気軽に訪れられるよう、内部の活動が外からも見える等の工夫を行い、周辺に対して開かれた配置とします。



#### 緑豊かな公園環境に馴染んだ建ち現れ方

建物が緑豊かな公園に馴染み、周辺環境から浮いたものとならないように、住宅スケールを考慮したボリューム感として全体が建ち現れるよう配慮を行います。

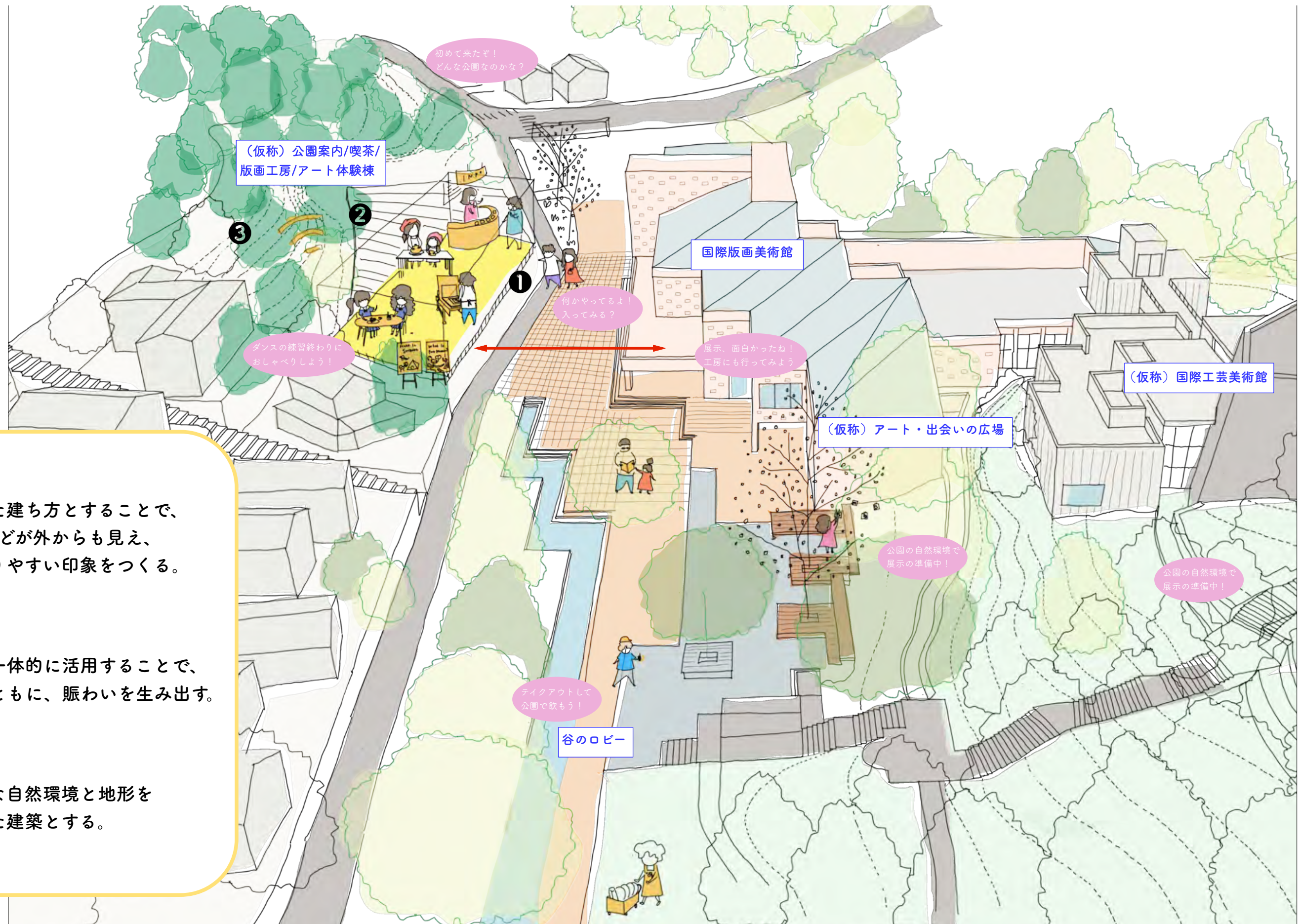


#### 外からも様々な活動が見える建築

来園者がアート活動に興味をもってもらえるよう、内部での活動の様子が外から見える機能配置とします。また、施設に訪れた人がいろんな活動に会えるように、内部の部屋同士も、お互いの活動が見えるようにゾーニングを検討していきます。





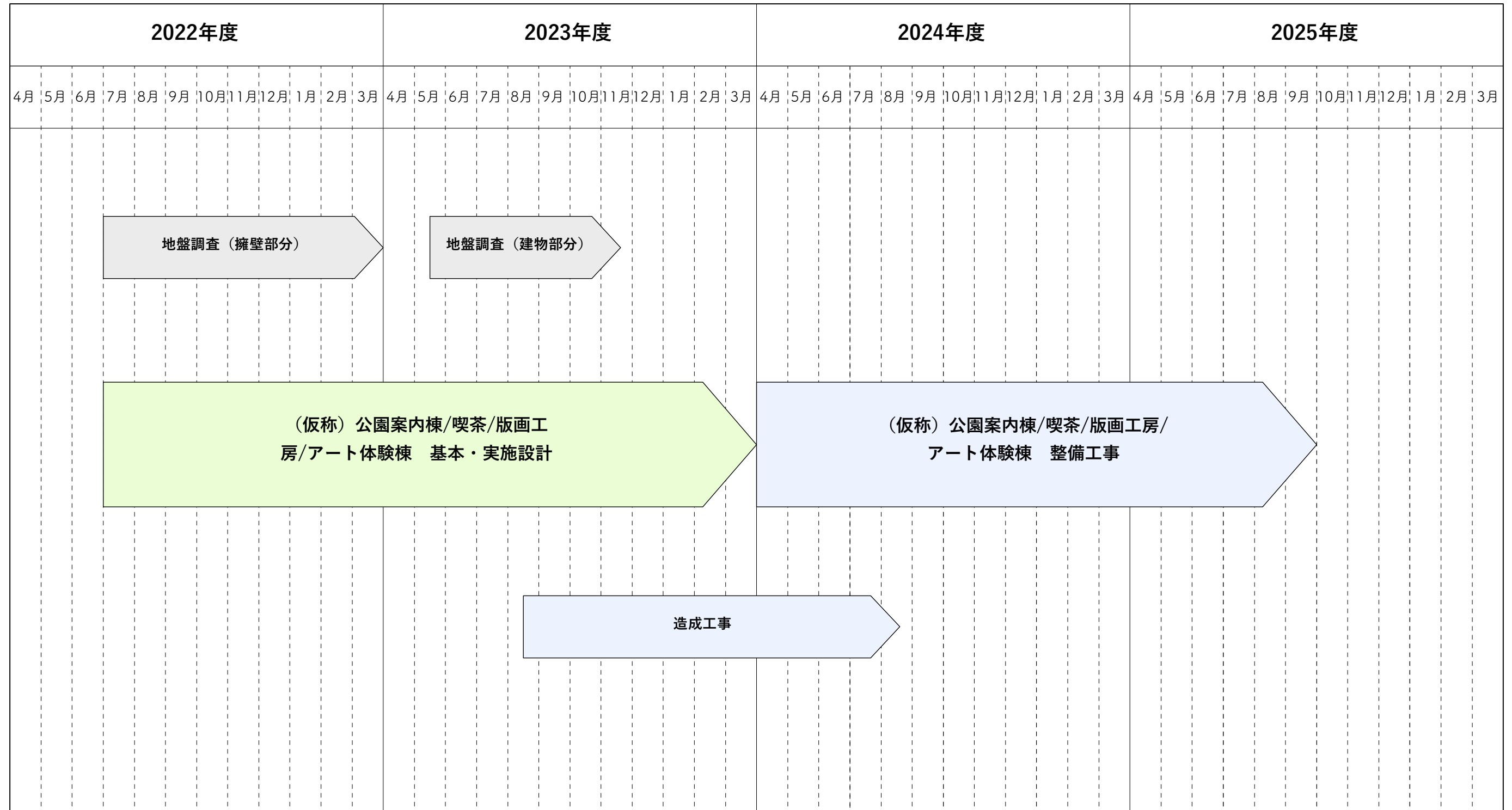


- ①** 公園入口に開いた建ち方とすることで、工房の活動などが外からも見え、誰もが気軽に入りやすい印象をつくる。
- ②** 外部空間を建物と一体的に活用することで、活動の幅を広げるとともに、賑わいを生み出す。
- ③** 敷地の豊かな自然環境と地形を生かした建築とする。



## § 5 : 計画推進に向けて

(仮称) 公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟の想定整備スケジュールについて整理を行なった。



## § 付属資料（専門家や利用者の意見等）

1 基本計画の策定にあたって 2 意見交換やアンケート結果

1 基本計画の策定にあたって

基本計画の策定にあたっては、これまでに（1）版画工房・アトリエ利用者（2）版画・陶芸・ガラス工芸等の専門家（3）子ども（4）国際版画美術館運営協議会（5）博物館運営委員会や喫茶けやき及び広く市民の方々と意見交換及びアンケートを実施し、いただいたご意見を計画へ反映しています。ご協力いただいた皆様ありがとうございました。

2 意見交換やアンケート結果

(1) 版画工房・アトリエ利用者

ア スケジュール

2021年 9月14日	「体験工房」の整備に向けてご意見をうかがう会
9月19日	
9月26日	
2021年12月16日	新しい工房の整備にきていただいたご意見の報告会
12月19日	

イ 主な意見

【安全性の確保】

- ・版画は腐蝕液や引火性のものを使うため、安全性を確保してほしい
- ・版画工房の中に制作者以外が入ることは危険である。子どものための体験スペースを作るのであれば、別棟を作ってもらえると安心して制作できる

【現在の工房機能の維持】

- ・版画工房はこのままの形で（版画美術館内に）残してほしい
- ・現状の版画工房の規模を縮小しないこと
- ・今の版画工房のスペースやプレス機などをそのまま維持してほしい

【工房の設計】

- ・現在の制作しやすい動線を保った設計をお願いしたい
- ・体験アトリエを全部ガラス張りでオープンスペースにするのは格好いいが、動線が混乱しないようお願いしたい

【子どもと体験】

- ・子どもが体験しているスペースを、ガラス張りにするなど外から見える形にするのは賛成である
- ・工房・アート体験棟は、別棟で、子供が水着のまま版画制作体験ができるなど、子どもたちが自由にアートを経験できる空間として作って欲しい

【ビジョン】

- ・1か所でいろんな経験が出来るのはいいと思う
- ・国際版画美術館の名前に恥じない工房を作って欲しい

(2)版画・陶芸・ガラス工芸等の専門家

(3)工房のコンセプト、②他施設との連携、③創作スペースの共有、④活動の「見える化」、⑤プログラム、⑥安心・安全、工房の規模、⑦工房の設備や設置する機材、⑧工房の一般開放、⑨管理・運営体制 の9項目について、6人の専門家へ2回ずつヒアリングを行った

ア 対象者とスケジュール

分野	氏名（敬称略）	所属
版画（リトグラフ）	遠藤 竜太	武蔵野美術大学教授
版画（銅版画）	大矢 雅章	多摩美術大学准教授
陶芸	安諸 一朗	陶芸アトリエ主宰、元陶芸スタジオ講師
ガラス工芸	栗田 絵莉子	玉川大学芸術学部講師
教育普及	降旗 千賀子	元目黒区美術館学芸員 町田市立国際版画美術館運営協議会委員
教育普及	宮原 裕美	日本科学未来館科学コミュニケーション室室長代理、町田市立博物館運営委員会委員

氏名（敬称略）	1回目	2回目
遠藤 竜太	2021年 9月24日	2022年 2月25日
大矢 雅章	10月 3日	2月17日
安諸 一朗	10月25日	2月24日
栗田 絵莉子	10月26日	2月17日
降旗 千賀子	10月15日	3月 4日
宮原 裕美	11月 1日	2月25日

2 意見交換やアンケート結果

イ 専門家の意見を市が整理し、確認した方向性

- ・幅広い市民を対象に、はじめて触れる人や子どもから楽しめるプログラムを提供すること
- ・新たな利用者が参加しやすい環境づくりとすること
- ・版画については、現在の版画工房・アトリエと同じく、はじめての人から本格的に創作を行う人まで利用できる工房とすること
- ・描画スペースなど、共有できるものは共有し、スペースの有効活用を図ります。共有化は効率の良い空間利用ができると同時に、異なる表現方法の制作が見えることで、新たな興味や交流が生まれ、市民の創作活動が深まることが期待できます
- ・工房内の活動が外から見えることで、公園来園者が制作に興味をもったり、やってみようと思ったりの効果が得られます
- ・施設の活性化をはかるため、作品を発表できるスペースを設けることなども検討し、制作だけでなく創作活動全体を支援すること

(3) 子ども

ア 子どもセンター「まあち」にてインタビューを実施

- ・実施日 2021年10月21日
- ・質問内容 新しい工房への希望、アイデアの収集

イ 高ヶ坂小学校及び町田第二中学校の児童・生徒を対象にアンケートを実施

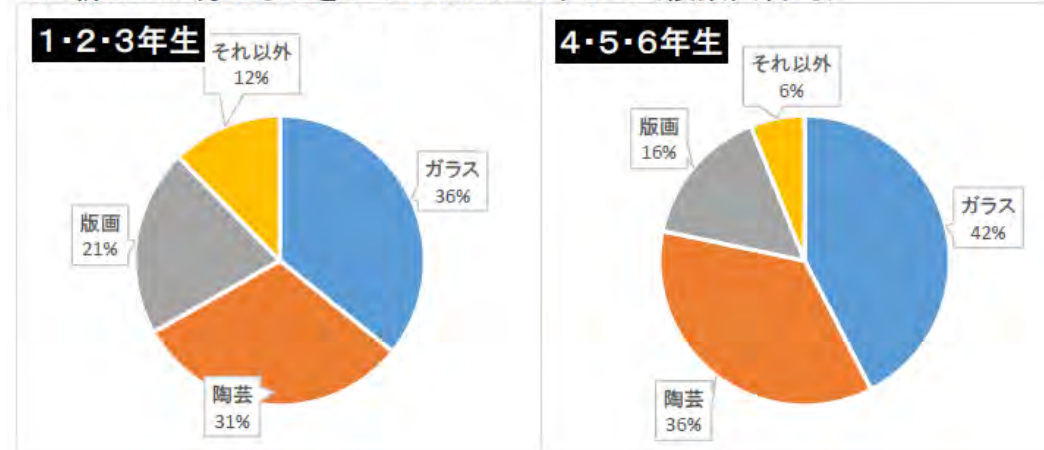
- ・実施日 ①高ヶ坂小学校 2月16日から2月25日（284名）  
②町田第二中学校 2月16日から2月22日（398名）

ウ 質問内容 ①芹ヶ谷公園に行ったことはありますか

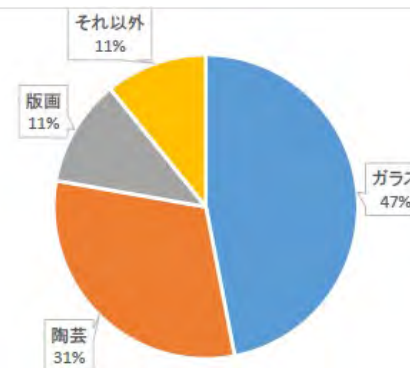
- ②国際版画美術館に行ったことはありますか
- ③新しい工房には、誰と行きたいですか
- ④新しい工房には、どんなときに行きたいですか
- ⑤新しい工房で、なにをやりたいですか

①高ヶ坂小学校

Q 新しい工房でなにをやりたいですか？（複数回答可）



②町田第二中学校



【ガラス】

- ・コップ（自分用、パパとママ用、プレゼント）、ネックレス、アクセサリ、スノードーム、日本のガラス財規が見たい、ガラスにお絵かき、お皿、置物、コップに絵を描く、色を付ける、吹きガラス、色を付ける、キーホルダー・ストラップ、風鈴、スタンドグラス等

【陶芸】

- ・お皿、コップ、茶碗、抹茶を飲むやつ、道具入れ、プレゼント、つぼ、花瓶、器、器に色を付ける、ろくろを使ってみよう等

【版画】

- ・洋服、バッグ、マスク、カレンダー、判子、プレゼント、道具を触ってみたい、オリジナルのものを作りたい、町の風景、自分が一番得意な絵、マイトートバッグ、マイTシャツ、有名な絵を刷ってみたい、リトグラフの表現が気になる、現代の人物などを浮世絵にする



## 2 意見交換やアンケート結果

### 【それ以外】

- ・ボシエット、アートを書きたい、絵の具で海や魚、折り紙、手芸、編み物、ペン立て、ピアス、木や紙の工作、写真立て、缶バッジ、プロの技を見てみたい、スニーカーなどにデザインしたものを印刷、オリジナルのぬいぐるみ、ミサンガ、日本画・海外画の鑑賞がしたい

### (4) 国際版画美術館運営協議会

- ア 開催日 ①2021年10月27日  
②2022年2月2日

#### イ 主な意見

- ・行政以外の組織と協働できるいい機会だと思う
- ・学校教育だけでなく、放課後の活動や単純に興味を持った子など、子ども全体で捉えて検討してほしい
- ・新しいアトリエは、教育普及に対する期待がとても大きい。充実したプログラムを作るために、人をきちんとつける必要がある
- ・工房については今後も「作る」という事を大事にしていきたい、ご意見なども市へお伝えしていきたい

### (5) 博物館運営委員会

- ア 開催日 2022年3月7日

#### イ 主な意見

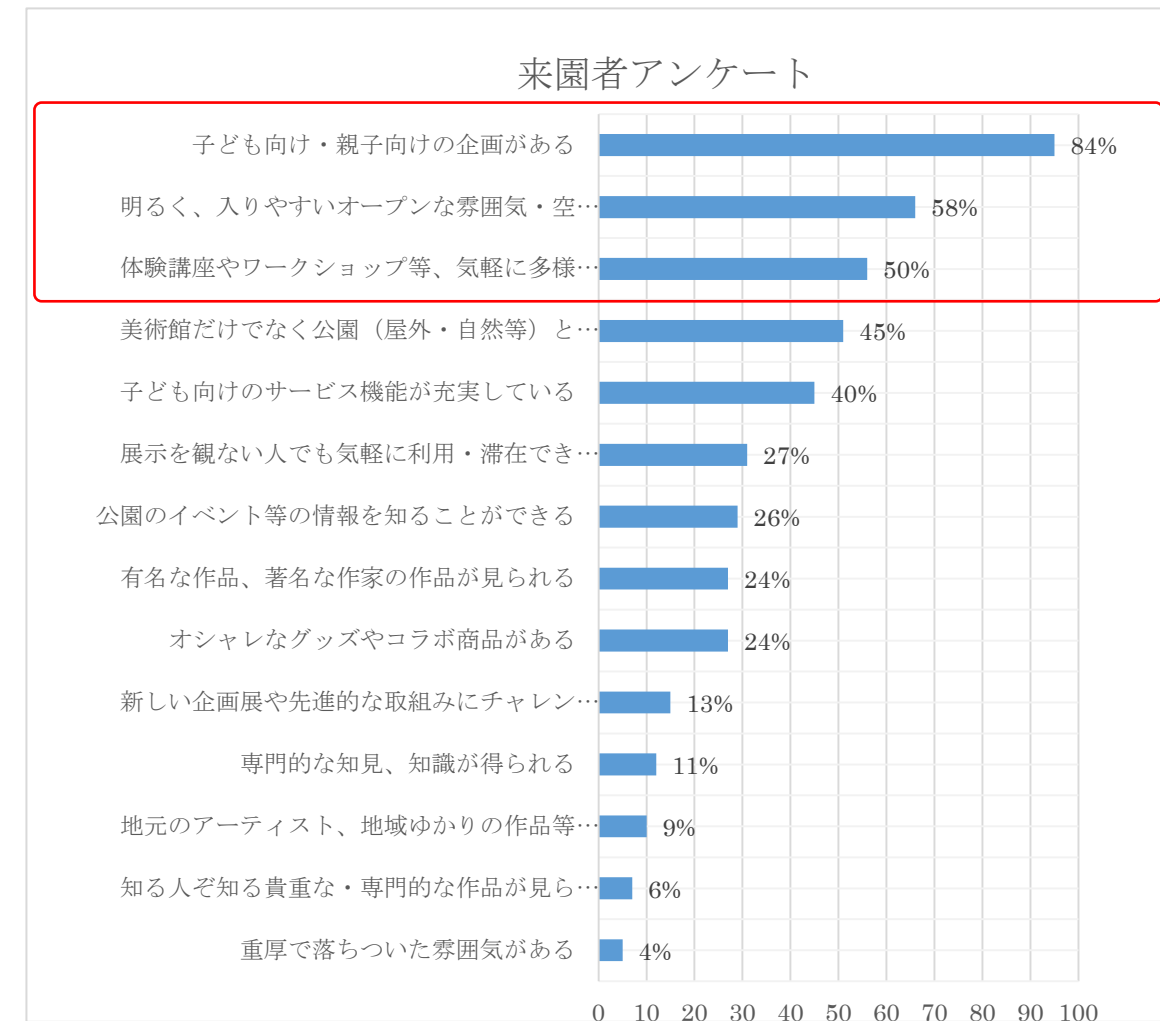
- ・プログラムの運営にあたっては、官民の関係性がフラットであると良い。民間事業者が主体的に運営できる部分も重要だと考えている。
- ・(仮称)公園案内棟/喫茶/工房・アート体験棟や国際工芸美術館など、箱を意識して区切りがちに見えるため、空間の連続性を大切にすることがある

### (6) アンケート

#### ア 来園者アンケート

さくらまつり2022の際に、芹ヶ谷公園に来園した方を対象とし、アンケートを実施しました。

「公園に来た時に、どんな美術館だったら入ってみたい、また訪れたいと思いますか」の質問に対して113名の方からご回答いただきました。



2 意見交換やアンケート結果

イ 町田市民アンケート調査（2020.11 実施、対象 3,000 人、有効回答率約 33%）

- ①文化芸術の鑑賞を促進する方策、文化芸術の活動を促進する方策は、いずれも次の2つが上位2傑
- ・住んでいる地域やその近くで鑑賞することができる（51.2%、41.6%）
  - ・魅力ある催しが行われる・多様なジャンルの催しが行われる（45.6%、34.0%）

- ②活動を促進する方策は、
- ・初心者向けの活動・気軽に参加できる活動が行われる、33.4%で続く。
  - ・さらに、回答者別に分析したところ、活動しなかった・できなかったグループにおいては、「初心者向けの活動・気軽に参加できる活動が行われる」が2位に入っており、新たに裾野を広げるにあたって検討すべき事項としている

- ③文化芸術に親しむ市民が増えるために必要な市の取り組みについては、
- ・「気軽に親しめる・楽しめる場づくり」が47.7%と最も高く、次いで
  - ・「公共施設を利用しやすくする」が30.4%
  - ・「体験や触れる機会の充実・提供」が30.0%となっている。

- ④文化芸術面で力を入れて欲しいことについては、
- ・「文化芸術の鑑賞機会や活動、催事等が充実している」が31.5%と最も高く、次いで
  - ・「美しい景観や自然が大切にされている」が26.6%
  - ・「子どものうちから多様な文化や芸術に触れられる機会が多い」が23.7%となっている。

- ・その他、美術館だけでなく公園と一体的に楽しめる 45%/展示を観ない人でも気軽に利用・滞在できる空間がある 27%/公園のイベント等の情報を知ることができる 26%/知る人ぞ知る貴重な作品を見られる 6%/重厚で落ち着いた雰囲気がある 4% 他

ウ 芹ヶ谷公園でやってみたい活動調査

（2019年8月24日から11月4日までに計6回実施、回答数649人）

※芹ヶ谷公園“芸術の杜”プロジェクトパークミュージアムコンセプトブックより

- ・「アート・創作活動」や「飲食活動」が多く挙げられました。
- ・アンケート結果については以下の通りです。

